

# 令和2年度学校自己評価システムシート（県立久喜特別支援学校）

目指す学校像	児童生徒の社会的自立の力を育む学校
--------	-------------------

重点目標	1 新学習指導要領に基づき児童生徒が、「何が身についたか」を実感できる授業づくりを進める。 2 共生社会の実現に向け、教職員の専門性を生かした「児童生徒の確かな自立」を実現する。 3 災害対策を確立し、保護者とともに児童生徒が安全で安心な学校生活を送れる環境づくりを進める。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者名 生徒名 事務局(教職員)名
-----	----------------------------

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 月 日 現 在 )			実 施 日 令 和 3 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	<p>新学習指導要領の実施について、教育課程を編成し、各学部において教育課程や指導内容を検討し、「主体的・対話的・深い学び」、「社会に開かれた教育課程」、「カリキュラム・マネジメント」、「何ができるようになるか」、「何が身についたか」、「学びに向かう力・人間性等、知識・技能、思考力・判断力・表現力等」の視点を明確にしていく必要がある。引き続き児童生徒の意欲や理解を促すため、ICTを効果的に利用するための研修を行っていく。</p> <p>教育支援プランに基づく指導支援が進みつつあるが、より一層の充実を図るため、教職員の専門性の向上を図り、児童生徒の障害特性に配慮した指導を進める必要がある。</p>	児童生徒が「何が身についたか」を実感できる授業づくりを行う。	<p>【達成感を持てる授業づくり】</p> <p>①新学習指導要領の狙いを明確にし、個々の授業者において授業を検討していく。</p> <p>②教育支援プラン作成について説明会を年度当初に実施する。</p>	<p>【達成感を持てる授業づくり】</p> <p>①新学習指導要領の内容を個々の授業者において把握し、授業を検討できたか。</p> <p>②教育支援プランの説明会を実施し、保護者の理解を得られたか。</p>					
2	<p>本校の目指す学校像にある「社会的自立」を目指し、本校の教育活動を整理し、児童生徒一人ひとりの自己実現、進路実現を確実に図っていく必要がある。またその取り組みを保護者と学校とで共有し、目標に向かって指導にあたっていく必要がある。</p>	確かな自立のための具体的な取組を明確にする。	<p>【確かな自立のための具体的な取組】</p> <p>①保護者向け「進路説明会」や「実習報告会」等を通して、本校の教育計画を保護者に示し、自己実現・進路実現に向けた整理を行う。</p> <p>②卒業後の進路実現の具体策を保護者に示し、小・中・高の連携の中で自己実現に向けた意識を醸成する。</p>	<p>【確かな自立のための具体的な取組】</p> <p>①具体的な取組を実施できたか。</p> <p>②「進路の手引き」の中の、小・中・高の具体的な進路指導(学習)の卒業後を見据えた指導内容を、教職員「進路研修」等の中で各学部、学年を通して構築し、実践を通してその内容を研修できたか。</p>					
3	<p>頻発する自然災害や感染症拡大に対して、関係各組織とも密接に連携し、保護者とともに災害対策に向けた準備を推進していく必要がある。</p>	災害時対応への備えを進める。	<p>【災害時対応】</p> <p>①保護者とともに児童生徒一人一人の災害時備蓄計画を検討する。</p> <p>②災害、感染症が発生した際に、教職員・保護者が具体的にどのように行動するかを簡潔に示す。</p>	<p>【災害時対応】</p> <p>①具体的な災害時備蓄計画を保護者とともに検討できたか。</p> <p>②課題を明らかにし、対応策を計画し、保護者に周知できたか。</p>					